

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3473300741
法人名	医療法人 北原会
事業所名	グループホーム大野
所在地 (電話番号)	広島県廿日市市大野67番地1 (電話) 0829-56-3333

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(平成20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	18人	
職員数	25人	常勤 20人,	非常勤 5人, 常勤換算 19.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨造り 地上2階建て1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	-円	昼食 -円
	夕食	-円	おやつ -円
	又は1日1,000円		

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18人	男性 3人	女性 15人
要介護1	1人	要介護2	8人
要介護3	9人	要介護4	0人
要介護5	0人	要支援2	0人
年齢	平均 85.5歳	最低 77歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	敬愛病院(内科, 神経科, 精神科), 二神歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム大野は、医療法人北原会を経営母体とするホームで、世界遺産「厳島神社」を望む本土側JR宮島口駅から北東へ車で約10分の山腹に位置しています。交通量の比較的多い県道に面したホームですが、閑静で日当たりのよい環境にあります。利用者はすべて近郊の住民であり、住み慣れた地域で、利用者相互に仲良く、穏やかに生活されています。職員は、利用者のこれまでの生活習慣をホームの暮らしに取り入れられるよう、声かけや傾聴に努められています。また、ホームには看護師が配置され、敷地内には、敬愛病院が併設されており、綿密な医療との連携が、利用者、家族に安心感を与えています。日々のサービスの提供においては、管理者とケアマネジャーが力を合わせて、職員をリードし、一つのチームとしてまとめられています。職員全員が「笑顔」と「目配り」を心がけながら、ホームの理念である「温かく、家庭的で、のんびりとした暮らしの実現に向けて取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善事項であった①「地域との付き合い」②「市町との連携」③「同業者との交流」④「災害対策」については、経営母体と協議するとともに、運営推進会議の議題として採り上げ、現状で実施可能なことについては、すでに実行されています。なお、①と④については、今後も継続して検討していく方針を持たれています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 評価の意義を理解するとともに、サービスの質について、利用者、家族、地域に視点を置いた13項目を重点的に検討されており、各項目の理解に努めながら、具体的にサービスの質の向上につなげるよう取り組まれています。今回の自己評価では、主に「災害対策」について話し合われており、経営母体と連携を図りながら、災害時の体制づくりに早急に取り組めるよう検討されています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域住民代表、家族代表、協力医療機関職員、ホーム理事長、責任者等、9人で構成される運営推進会議が、2か月ごとに開催されています。会議では、ホームでの利用者の暮らしぶりや意見・要望への取り組み状況、改善に関する事項などを報告されており、議事録もきちんと整備されています。会議の内容は、職員全員に伝達され、ホームの運営に活かされています。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者・家族・職員の3つの輪が十分に結びつき、信頼関係が築けるよう、利用者同様に家族の思いも大切にされています。理念にも掲げているように、訪問時には、家族の声の「傾聴」が心がけられています。なお、ホーム内に設置された目安箱に意見は寄せられていません。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 周辺に、住宅や他の事業所がないこともあり、地域との活発な交流はありませんが、「秋祭り」等の地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めるよう取り組まれています。現在、ピアノ、合唱等、職員の特技を活かした地域交流や子ども会の訪問を検討されています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者が安らぎと喜びの日々を送れる家庭的な雰囲気づくりをめざす。入居者の気持ちを理解し常に笑顔で目配り傾聴に努める。地域に愛され信頼されるホームづくりをめざす。」という、地域での暮らしを意識したホーム独自の理念が作成されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1階、2階に各ユニットがあり、利用者の見守りのために残る場合を除いて、毎朝、可能な限り職員が集まり、理念を唱和されており、理念が職員の行動の指針となるよう努められています。この取り組みの姿勢が、利用者への理念の浸透にもつながっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺に、住宅や他の事業所がないこともあり、地域との活発な交流はありませんが、「秋祭り」等の地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めるよう取り組まれています。現在、ピアノ、合唱等、職員の特技を活かした地域交流や子ども会の訪問を検討されています。	○	ピアノ、合唱、絵画、紙芝居等、職員の特技を活かした催しを企画し、地域住民に参加を呼び掛けるなど、地域交流の機会づくりに積極的に取り組まれることを期待します。さらに、子ども会の訪問を実現させることで、地域との交流をより一層、促進されることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解するとともに、サービスの質について、利用者、家族、地域に視点を置いた13項目を重点的に検討されており、各項目の理解に努めながら、具体的にサービスの質の向上につなげるよう取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、家族代表、協力医療機関職員、ホーム理事長、責任者等、9人で構成される運営推進会議が、2か月ごとに開催されています。会議では、ホームでの利用者の暮らしぶりや意見・要望への取り組み状況、改善に関する事項などを報告されており、議事録もきちんと整理されています。会議の内容は、職員全員に伝達され、ホームの運営に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	廿日市市地域包括支援センターが主催する連絡会に出席されており、最新の情報や意見の交換が行われています。また、この情報は全職員に周知されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	理念にも掲げているように、訪問時には、家族の声の「傾聴」を心がけられています。また、毎月の請求書に同封されている職員からの手紙では、利用者のホームでの暮らしぶりや身体状況などが報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は、「申し送り簿」に記載し、職員全員に周知されており、改善を要する場合には、ミーティング会議で検討されています。居室に仏壇を置きたいとの要望に、すぐに対応された等、具体的な事例が確認できました。なお、家族の訪問時に、意見を直接聴き取るよう努められており、ホーム内に設置された目安箱に意見は寄せられていません。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在までに2人の異動がありましたが、利用者全員に報告するとともに、引継ぎを十分に行うことで、利用者の不安を最小限におさえるよう努められています。また、新規採用の場合にも、利用者全員に紹介するなど、絆が深められるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	看護師から服薬の手順等の指導が行われるなど、ホームに勤務する専門職から学ぶ機会が設けられています。また、外部研修を受講した場合は、受講者が内容を全職員に伝達するなど、情報の共有化に努められています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は持たれていませんが、廿日市市地域包括支援センターを通して、他事業所の状況について把握し、情報の共有に努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、アセスメントを十分に行うとともに、利用者、家族の意向を確認し、納得が得られるよう話し合われています。職員は、理念に基づき、「私たちにお任せください」という信念を持たれており、利用者が安心して暮らせるよう一人ひとりの「元気づけ」に取り組まれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこだわり、喜び、楽しみ、不安等を把握するとともに、それらが共有できるよう、対話・傾聴を心がけ、信頼関係の構築に努められています。また、日々の生活の中で、職員は利用者から学ぶ姿勢を持たれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今何をしたいか」「どこかに行きたいか」等、利用者の意向を対話の中で汲み取るよう心がけられています。また、思いや意向を個人別ノートに記録するとともに、ケアプランに反映されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで意向を十分に把握されており、利用者、家族との話し合いのもと、納得が得られた介護計画が作成されています。また、介護計画の内容については、職員全員で共有されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの心身の変化に留意し、定期的および状況に応じた見直しが行われており、利用者、家族とともに、職員の意見も取り入れながら現状に即した計画が作成されています。また、介護計画を変更した場合には、利用契約書第3条に基づき、コピーをお渡しされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの暮らしにおいて、共同生活ならではの楽しさを実感していたり、また、外出等、一人ひとりの「好きなこと」の実現に向けて、柔軟に対応されています。また、医療との連携による利用者、家族の安心感を考慮され、医師、看護師との協力体制を整えられています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医を把握されており、利用者は協力医療機関や従来から利用されているかかりつけ医でそれぞれ受診されています。医療機関との連絡体制、受診体制を整え、一人ひとりの健康を保持されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族の意見を尊重するとともに、かかりつけ医との連携を密にして対応するという意向を持たれており、重度化した場合の方針を全員で共有されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から一人ひとりに応じた言葉かけや傾聴を心がけ、プライバシーの保護に努められています。特に、排泄、入浴時の羞恥心に配慮されており、利用者が嫌な思いをすることのないよう努められています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴については、一定の時間が決められていますが、「後にしてほしい」等の利用者の希望には、可能な限り沿うよう努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事は最大の楽しみ」であることを念頭おき、ユニットごとに全員で楽しく食事を摂られています。利用者の得意分野を活かし、準備や盛り付け、後片付け等をできる限り手伝ってもらえるよう取り組まれています。また、苦手な食べ物については、要望により代替食を提供するなど、一人ひとりの嗜好にも配慮されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が原則となっていますが、利用者の希望に応じて毎日入浴できるように体制を整えられています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝いや庭の草花の手入れ等、一人ひとりの思いや「得意なこと」を把握するとともに、それらを活かした役割づくりに取り組まれています。また、趣味の書道など、その時々「やりたいこと」が支援できるよう柔軟に対応されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出時は利用者の安全に配慮し、必ず職員が付き添われています。出来るだけ多くの人と一緒に外出したいとの思いから、8人乗りの車を購入されており、一緒にドライブや買い物に出かけることが、利用者の喜びにもつながっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が県道に面しており、交通量も多いため、利用者の安全に配慮し、玄関には鍵がかけられています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には、何よりも人命を最優先に考えるという方針のもと、経営母体と一体的な防災計画の作成を検討されています。	○	「安全に勝る施策はない」との考えに基づき、災害時における職員一人ひとりの役割を確認するなど、早急に防災計画の作成に取り組まれるよう期待します。また、利用者、職員の安全を確保するため、いざという場合に、地域の支援が得られるような働きかけを検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バイタルチェックを行うとともに、水分・食事の摂取量を記録し、一人ひとりの状態の変化に留意されており、体調に応じて調理方法を工夫するなど、個別の対応が行われています。また、状態の変化に応じて、直ちに看護師に連絡し、かかりつけ医の指示を仰ぐなど、迅速な対応が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の五感がいつまでも維持されるようホームの色や光、影、広がり、音、匂い等に配慮し、居心地のよい暮らしが送れるよう取り組まれています。談話室や廊下に観葉植物を置くなど、自然を取り入れる工夫が見受けられました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔が保たれた居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた品々や家族の写真等が置かれ、のびのびと穏やかに過ごせる環境が実現されていました。自ら居室を掃除をされる利用者もおられるなど、健康づくりにも役立っています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム大野 1 ユニット

評価年月日 平成20年 10月 11日

記入年月日 平成20年 10月 11日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 氏名 沖政 由美恵

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	その人らしい生活を大切にし、常に笑顔で、家庭的な雰囲気作りを行えるように、独自の理念を作っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日の朝礼時に、スタッフ全員で理念を唱和し、日々取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関の出入り口や、廊下に理念を掲示して、地域の人々や家族にいつでも見てもらい又、運営推進会議でしっかり説明し理解してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	季節の行事には、声掛けし立ち寄りしてもらっている。又、散歩や外出、買物先で声を掛け合い挨拶している。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	日常的には、頻繁に交流はないが、秋のまつりに参加している。	○ 自治会との交流は、積極的には行っていない。地域の一員として、もう少し交流していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立てる等の話し合いは行っていない。	○	何が役立つかを話し合う事のできる機会を設ける。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後、改善点が分かりスタッフ全員で、話し合いが出来、さらに統一されたケアが見えてくる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況・状態や色々な報告をした後、地域や家族からの意見を聞き、改善点は、スタッフ間で話し合いサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの連絡会に参加し、情報を持ち帰りスタッフと話し合い意識の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部のスタッフは学んでいるが、話し合い活用はしていない。	○	学ぶ機会を持ち、必要な方に支援出来るように活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、全スタッフ知識を持っており、十分注意を払っています。又、施設内では、防止にも努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の責任者、事務員が十分な説明をが行い、納得・理解された後で契約や退居を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情は日々の会話の中で聞いている。 又、苦情窓口や目安箱を設置し意見をいただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、遠方の方には、定期的に手紙を出している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際、不満がないか聞くようにしている。 又、目安箱を設置し、意見を聞いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて提案や意見交換をし、運営がスムーズに行えるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な職員数を確保出来るよう、勤務調整・勤務体制を整えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は、引継ぎを十分に行い利用者の不安を最小限に抑えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修には、必要に応じて参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設とは交流はないが、地域包括支援センターの連絡会で他の施設の状況を聞いたり、情報提供で得た課題を持ち帰りスタッフ間で話し合い、質の向上をめざしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃からスタッフとの関係を大切にし、いつでも気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況や日々の実績状況は把握している。又一人ひとりが向上心を持って行くように、働き掛けにつとめている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時には、本人に不安、困っている事がないか必ず聞いている。早くホームの生活に慣れ、安心して生活が出来るように、声かけをしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時には、家族からも不安、困っている事をしっかり聞いている。面会時にも、近況を伝えたり、家族の思っている事や不安や意見があればその都度話し合いをもっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、早期対応に努め、必要に応じて他のサービス機関とも、連携を取り合い支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを行う前には、カンファレンスでしっかり話し合い、本人や家族と相談し、納得した上で工夫しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で教えてもらう事も多く、良い意味の緊張感と信頼関係を共に築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向や思いを大切にし、入居者を共に支え合える信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	両者の架け橋となれるような、助言を心がけ支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ外出の機会を設け、昔懐かしい場所へ出かけたり、絵手紙を書いたり支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立する事のないように、スタッフが間に入り交流の場を提供しするよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後は、継続的な関係は持っていない。	○	近況報告等の連絡に努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン等で本人の希望や意向をしっかり聞き、カンファレンスで話し合い支援出来るように、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの生活暦を聞きアセスメント・基本情報を作成し、ミーティングにて全スタッフで把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの心身の状態は毎日記録しており、スタッフ全員が把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで本人、家族の意見をしっかり聞き、十分に話し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった場合、本人・家族・スタッフ間で話し合い、現状にあったケアプランを作成している。 又、見直しも1回/3月は必ず行って状態に応じて計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の様子、状態は記録している。変化のあるときには、情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望は出来るだけ聞き入れられるよう、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その時々に応じて、各機関やボランティア等の協力があり、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の思いや意向を聞き入れ、他のケアマネや包括支援センターと相談し、必要なサービスの支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	総合的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターに相談し協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望を聞き入れ、的確な判断の上で、かかりつけ医や併設の医療機関との、連携も築きながら支援していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った対応や言葉掛けをし、プライバシーを損ねないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で決断できるように、納得のいくまでゆっくと、話を傾聴している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてながら、思いや希望を聞き支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい装いを支援し、中には、家族が理・美容院に連れて行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の得意分野を活かし、準備や盛り付け、後片付けを一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりが日々楽しめるように、工夫し支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、さりげない声掛けを行い、失敗を防ぐように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにしている人には、毎日入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルを大切にして、安心して眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野を把握し、それらが活かせる役割を持って持ってもらい、日々を楽しく過ごしていけるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望でお金を持っている人もいれば、小遣い程度位持っている人や家族との相談で、家族が管理している人もいる。自動販売機のジュースを買ったり、外出で必要な物を買ったりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフと一緒に、ドライブや買物・散歩に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさと帰省や法事で家族と共に出かけられるように、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話や手紙の希望があれば、希望に添うように、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際には、ゆっくりと会話ができるようにお茶等を出して、工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体梗塞をしないケアに、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な状態等でやむ得ずカギを掛ける事もあるが、出来る限りカギを掛けない工夫をしている。又、中には、カギを掛ける事で、安心する人もいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安心して生活を送ってもらうために、一人ひとりの昼夜の様子を把握し、プライバシーに配慮しながら安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全対策として、危険なものは、目の付かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの事態・状態に応じた記録をする事で、改善策をとっている。又、併設の機関で事故防止の研修等の知識を学んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は定期的に行なっていない。併設機関での勉強会はあるが、全てのスタッフは参加していない。	○	定期的に応急手当や訓練を、行なって行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対策マニュアルもあり、避難場所は解っています。が、訓練は年2回しか行なっていない。又、地域の協力を得られるような働きかけはしていない。	○	地域の人々に、働き掛けて行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時には、看護師が日頃の身体状況を報告し、一人ひとりに合った生活のリズムを大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	3回/週の往診と毎朝のバイタルチェックや看護師が体調管理し日々の健康を把握している。又、異常があれば、その都度早期対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容は、カンファレンスやミーティングの場で情報を共有できており、理解している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりに合った食事・運動を、工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、口腔ケアの声かけを行なっている。出来ない人には、介助もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりの食事量・水分摂取量を記録し、一日の総摂取量を把握している。又、その日の状態や体調を見て、調理方法も工夫し支援している。	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	併設の病院の研修で勉強をしている。手洗い・うがい・消毒等のマニュアルを作り、日頃からこまめに予防を行なっている。	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	調理用具等の衛生マニュアルも作っている。調理後は、消毒・清潔に努め、食材の管理も気を付けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	気軽に立ち寄ってもらえるように、玄関周りに季節の花を植えたり、植木鉢を置いたり工夫をしている。	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	談話室や廊下に観葉植物を置き、緑を多く取り入れ、居心地の良い暖かい空間作りをしている。	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	談話室には、ソファを置き、気の合う人との会話が楽しめたり、一人で過ごしても居心地の良い場所の工夫をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持って来たり、家族写真を飾ったりレクリエーションで作った工作を飾ったりと、自分流のお部屋作りを楽しんでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いや湿度・室温に配慮し、一人ひとりの状態・状況に対し換気・温度調節に気を付けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内には出来るだけ物を置かないようにし、安全に移動できるようにしている。又廊下等には、手すりを設置し安全面に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋ごとに違った花の絵を付けた表札を掲げ、トイレ・お風呂場等にも解り易く目印をつけ、混乱しないように工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に、季節の花の手入れをしたり、野菜の収穫を楽しんだり又、天気の良い日にはお茶タイムも楽しんでいる。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム大野 2 ユニット

評価年月日 平成20年 10月 11日

記入年月日 平成20年 10月 11日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 氏名 中村 清美

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に笑顔で、一人ひとりの生活を大切にし、家庭的な雰囲気作りを自然に行えるように、独自の理念を作っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に、スタッフ全員で理念を唱和し、日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の出入り口や、廊下に理念を掲示して、地域の人々や家族にいつでも見てもらい又、運営推進会議でしっかり説明し理解してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出、買物先で声を掛け合い挨拶している。季節の行事には、声掛けし立ち寄りしてもらっている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的には、頻繁に交流はないが、秋のまつりに参加している。	○ 自治会の交流は、積極的には行っていない。地域の一員として、もう少し交流に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立てる等の話し合いは行っていない。	○	何が役立つかを話し合う機会を設ける。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後、改善点が分かりスタッフ全員で、話し合いが出来、さらに統一されたケアが見えてくる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状態、状況や色々な報告をした後、地域や家族からの意見を聞き、改善すべき点は、スタッフ間で話し合いサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの連絡会に参加し、情報を持ち帰りスタッフと話し合い向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部のスタッフは学んでいるが、話し合い活用はしていない。	○	学ぶ機会を持ち、必要な方に支援出来るように活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、全スタッフは、知識を持っており、十分注意を払い又施設内では、防止にも努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を施設の責任者、事務員が行い納得、理解された後、契約や退居を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情は日々の会話の中で聞いている。又苦情窓口や目安箱を設置し意見をいただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、遠方の方には、定期的に手紙を出している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に不満がないか、聞くようにしている。又目安箱を設置して、意見を聞いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで提案や意見を出し合い、運営がスムーズに行くように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な職員数を確保出来るよう、勤務調整をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による場合は、引継ぎを十分に行い利用者の不安を最小限に抑えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修には、必要に応じて参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設とは交流はないが、地域包括支援センターの連絡会で他の施設の状況を聞いたり、情報提供で得た課題を持ち帰りスタッフ間で話し合い、質の向上をめざしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃からスタッフとの交流を大切にし、いつでも気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況や日々の実績状況は把握している。又一人ひとりが向上心を持って行くように、働き掛けにつとめている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時には必ず、本人に不安、困っている事をしっかり聞いている。ホーム生活に慣れ安心して生活が出来るように、声かけをしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に、家族からも不安、困っている事をしっかり聞いている。面会時にも、様子を伝えたり、家族の思っている事や不安や意見があればその都度話し合いをもっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、早期対応に努め、必要に応じて他のサービス機関にも、連絡を取り支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを行う前には、カンファレンスでしっかり話し合い、本人や家族と相談し、納得した上で工夫しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場の中で教えてもらう事も多く、信頼関係を共に築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向や思いを大切にし、入居者を共に支えあい信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	両者の架け橋の役目となれるような、助言を心がけ支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を設け昔懐かしい場所へ出かけたり、絵手紙を書いたり支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが間に入り交流の場を提供し、孤立しないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後は、継続的な関係は持っていない。	○	近況報告等の連絡に努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランで本人の希望や意向をしっかり聞いて、カンファレンスで話し合い支援出来るように、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から、これまでの生活歴を聞きアセスメント、基本情報を作成し、ミーティングを開き全スタッフは把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日々の生活の過ごし方や心身の状態は毎日記録しており、スタッフ全員が把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで本人、家族の意見をしっかり聞き、十分に話し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化があった場合、本人、家族スタッフ間で話し合い現状にあったケアプランを作成している。又見直しも1回/3月は必ず行って状態に応じて計画をたてている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の様子、状態は記録している。変化のあるときには、情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望は出来るだけ聞き入れ、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その時々に応じて、各機関やボランティア等の協力があり、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の思いや意向を聞き入れ、他のケアマネや包括支援センターと相談し、必要なサービスの支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	総合的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターに相談し協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望を聞き入れ、的確な判断の上かかりつけ医や併設の医療機関との、関係も築きながら支援していく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮しながら、一人ひとりに合った対応や言葉掛けをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で決められるように、納得のいくまでゆっくと、話を傾聴している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてながら、思いや希望を聞き支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい整容を支援したり、中には、家族が理・美容院に連れて行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の得意分野も活かし、準備や盛り付け、後片付けを一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりが日々楽しめるように、工夫し支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの習慣を把握して、さりげなく早めの声掛けを行い、失敗を防ぐように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにしている人には、毎日入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して眠れるように、一人ひとりのライフスタイルを大切に、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野を把握し、それらが活かせる役割を持って持ってもらい、日々を楽しく過ごしていけるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望でお金を持っている人もいれば、小遣い程度位持っている人や家族との相談で、家族が管理している人もいる。自動販売機のジュースを買ったり、外出で必要な物を買ったりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフと一緒に、ドライブや買物・散歩に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさと帰省や法事で家族と共に出かけられるように、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があった時には、こころよく希望に添うように、支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際には、ゆっくりと会話ができるようにお茶等を出して、工夫している。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体梗塞をしないケアに、取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来る限り掛けない工夫をしているが、危険な状態等でやむを得ずカギを掛ける事もある。又、中には、カギを掛ける事で、安心する人もいる。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりが安心して生活を送ってもらうために、昼夜通して様子を把握し、プライバシーに配慮しながら安全確認をしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは、目の付かない場所に保管し、安全対策に努めている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの事態・状態に応じた記録をする事で、改善策をとっている。又、併設の機関で事故防止の研修等の知識を学んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は定期的に行なっていない。併設機関での勉強会はあるが、全てのスタッフは参加していない。	○	応急手当等の方法や訓練を定期的に研修し、全スタッフが対応出来るようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対策マニュアルもあり、避難場所は解っています。が、訓練は年2回しか行なっていない。又、地域の協力を得られるような働きかけはしていない。	○	日頃から、地域の人々に働き掛け、入居者と一緒に避難訓練をし、連携を行なっていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には、日頃の身体状況を報告し、一人ひとりに合った生活のリズムを大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	3回/週の往診と毎朝のバイタルチェックで、その日の体調を把握している。又、異常があれば、その都度早期対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者、一人ひとりの服薬の内容は、カンファレンスやミーティングの場で情報を共有できており、理解している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や声かけにて身体を動かす事で、出来る限り予防している。又、無理をせず、一人ひとりに合った運動を取り入れ、工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、口腔ケアの声かけを行なっている。出来ない人には、介助もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの食事量・水分摂取量を記録し、一日の総摂取量を把握している。又、その日の状態や体調を見て、調理方法も工夫し支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設の病院の研修で勉強をしている。手洗い・うがい・消毒等のマニュアルを作り、日頃からこまめに予防を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生マニュアルも作っている。調理後は、消毒・清潔に努め、食材の管理も気を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に立ち寄ってもらえるように、玄関周りに季節の花を植えたり、植木鉢を置いたり工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や廊下に観葉植物を置き、緑を多く取り入れ、居心地の良い暖かい空間作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、ソファを置き、気の合う人との会話が楽しめたり、一人で過ごしても居心地の良い場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品等、使い慣れた馴染みの物を持って来たり、家族写真を飾ったりレクリエーションで作った工作を飾ったりと、自分流のお部屋作りを楽しんでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いや湿度・室温に配慮し、換気・温度調節に気を付けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを付け、歩きやすくしている。又、ホール内には出来るだけ物を置かないようにし、安全に移動できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋ごとに違った花の絵を付けた表札を掲げ、トイレ・お風呂場等にも解り易く目印をつけ、混乱しないように工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階の庭に出て、季節の野菜の収穫や花壇の手入れをしたり、天気の良い日にはお茶タイムも楽しんでいる。		